



## 湾岸・アラビア半島地域ニュース

### サウジアラビア・イラン：イラン大統領のサウジアラビア訪問 (3月3-4日付現地報道)

3月3日、アフマディネジャード・イラン大統領はサウジアラビアを公式訪問し、アブドゥラー国王と会談した。同会談には、サウジ側よりアブドルラフマン国防副大臣、サルマン・リヤド州知事、サ우드外相、アハマド内務副大臣、バンドル国家安全保障会議事務総長他、イラン側よりモッタキ外相、マシャーイー副大統領他が同席した。

#### 1. 首脳会談要旨(4日付サウジ紙)

- (1) アブドゥラー国王は、両国間を繋ぐ隣国の絆及び宗教の一致を強調した。両首脳は、現在、イスラム世界を揺るがす大きな危険はイスラム教徒間にスンナ派とシーア派の派閥間闘争を巻き起こす試みであり、この試みを挫き、一致団結する必要性を確認した。
- (2) パレスチナ問題に関し、両首脳はパレスチナ人の意見を纏めることの重要性の点で一致し、イラン大統領は2002年のベイルートでのアラブ首脳会談で示された和平の為のアラブ・イニシアティブを支持した。
- (3) イラク問題に関し、両首脳は、現政府が計画を遂行することの必要性、イラクの独立性、統一性及び国民間の平等性を望むという点を確認した。
- (4) レバノン情勢に関し、アフマディネジャード大統領は、イランはサウジアラビアが行っているレバノン情勢の沈静化と政治的危機の終結の為の努力を支持すると強調した。更に両首脳は、レバノン各派が当該努力に応えるよう希望を表明した。
- (5) 両首脳は、両国の利益に叶う、二国間協力、二国間関係の支援と強化の方途について協議した。

#### 2. 帰国したアフマディネジャード大統領発言(4日付イラン ISNA 通信)

- (1) 我々はサウジアラビアと非常に良好で広範な関係をもっており、今回の訪問は、地域やイスラム世界で起きている情勢について協議することで、相互の見解への理解を深め、協力を実施する為に必要な訪問であった。
- (2) 幾つかの敵国がイスラム世界の不和醸成の為に仕組んでいる計画、及びイスラム諸国に損害を与えんとする彼らの目的は、今回の協議で検討され、両国共に敵による反乱に気づいている。我々はこうした反乱を非難する一方、全イスラム教徒が英知をもって敵の計画を認識するよう呼びかける。ペルシャ湾についても、敵がサウジ・イラン及び他のイスラム諸国に損害を与えるべく企てている畏に関して協議し検討した。
- (3) パレスチナ・イラク問題についても詳細に議論した。我々は多くの共通する見解をもち、

共に敵によるイスラム地域の支配、彼らの計画に反対している。今回の訪問で、敵に対抗する為の幾つかの共同措置の実施が決定され、これがイスラム共同体とイスラム教戦線の強化に繋がることを期待する。但し、その為には調整が必要である。

(4) (ペルシャ湾での米国のプレゼンス及びイラン核問題に関し) 偽りの世論操作、不和醸成等、様々な方法を用いて敵が我々の地域を支配しようとしている点についても協議し、イスラム教徒及び地域諸国民の権利擁護の為に幾つかの共通の計画を立案した。

3. エフサーン・ジャハーンディーデ大統領府広報部次長の発言(4日、イラン IRNA 通信とのインタビューにて)

(サウジアラビアの SPA 通信が4日、「アフマディネジャード大統領はサウジアラビア国王との会談において、2002年にアラブ首脳会談で示されたアラブ和平提案を支持した」と報じたことについて) アフマディネジャード大統領とアブドゥラー・サウジアラビア国王との会談において、同年の提案(アラブ和平提案)については一切話されていない。

---

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799